

なんも・なんも



考えてみませんか？“共生型社会”—オリ・パラを契機に



～1972年札幌オリンピック開催時から高齢化も急速に進展～

7月から9月にかけて開催された『東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会』。コロナ禍での開催に、賛否両論はありながらも、たゆまぬ努力を重ね、ひたむきに競技に臨む選手の姿に、勇気と感動を覚えた人も多いのではないのでしょうか。

南区は、1972年の札幌オリンピック(第11回オリンピック冬季競技大会)とゆかりの深い地でもあります。当時から半世紀の時代の変遷に思いを馳せながら、オリンピック・パラリンピックを機に、“共生型社会”について考えるきっかけにしてみてもどうでしょうか？この間に、高齢化も著しく進みました。障がい者も、高齢者も、老若男女、年齢・性別・国籍を問わず、誰もがその人らしく、住み慣れた地域で安心して暮らせる社会へ。

そのために、身近でできることはないか？「社会的障壁」となっている事柄はないか？

—そんな小さな思いやりの優しい気持ちで、この「生活支援体制整備事業」の原動力になります。

■生活支援体制整備事業とは「生活」を「支える・応援」する「体制」を、「整備」していく「事業」です。



王子団地町内会コミュニティハウス

もいわ

「みっちゃんハウス」訪問

(北ノ沢6丁目8-17)

8月13日 予防センターもいわの方と一緒に訪問しオーナーの渡部友子さんとお会いしてきました。

自宅の持ち主だった亡きお母様(みっちゃん)の「地域のコミュニティの場にしてほしい」という意志を引継ぎ、王子団地町内会住民の方々の、おしゃべりの場、学びの場、ほっこりする場としての活用を目指しているとの事です。

建物に向かう階段には昇降機が設置され1階スペースには「蒸し屋やす」というパン屋さんが入っています。デッキやテラスからは川沿・中ノ沢方面の雄大な眺めが望めます。



みっちゃんの部屋(居間)は2時間まで無料、2時間以上一人50円の料金で利用できます。将来的には地域食堂等も開きたいとオーナーの夢は広がっています。



町内会の役員会やサロン、交流の場、ミニ講話会開催などコロナ感染対策しながらたくさん活用できると良いですね。

※ハウスを活用して催し物を実施する方大募集との事、連絡は渡部さん(FAX:011-571-3161)までお願いします。

●このような小さくても身近で自由に交流できる場所が、今後いろいろな地区にたくさん増えると良いですね。

定山溪地区

定山溪

生活支援推進会議 開催

7月27日、定山溪まちづくりセンターに、定山溪地区民生委員児童委員協議会(福祉推進員)の他、区役所や区社会福祉協議会、地域包括支援センター、介護予防センターの方々にお集まりいただきました。前回実施した住民意識調査から見てきた「買物支援」について皆様からたくさんのご意見を頂きました。

- 今は元気で困っていない方も、10年後20年後大変になる時にはどんなお手伝いがあるとよいか？
- コンビニの購入品の配達ボランティアがあったら？
- 移動販売に来てもらうにはどうしたらよいか？
- 連合町内会や観光協会との協議も必要ではないか？
- キッチンカーで食の支援と一緒に楽しみの機会に繋がれば良い…などなど

※次回の会議では、困っている人や元気な人からも、移動販売等を活用するうえでのご要望や、今後のボランティア活動の取り組みについてご意見を頂きながら、話し合いを行う予定です。

【発行・お問合せ先】

南区第2地区(藤野・簾舞・定山溪・藻岩・南沢)担当 生活支援推進員：和田 志保

札幌市南区川沿14条2丁目1-36(南区第2地域包括支援センター内)

Tel (011) 572-6110

